

眠っていた松田町の宝に光を！ 「からさわ古窯跡群」の出土品整理作業がスタート！

松田庶子に所在したからさわ古窯跡群は、奈良時代に古代瓦を生産した遺跡です。造られた瓦は、現在の小田原市にある千代台地上に位置する千代寺院跡（千代廃寺）に供給されたことがわかっており、屋根を彩っていました。

からさわ古窯跡群では一九六九年と一九八五年に行われた東名高速道路の工事に関連した発掘調査に伴って大量の瓦が出土しています。このうち、一九八五年に行われた調査では、青山学院大学の吉田章一郎教授を筆頭に組織された「からさわ・かなざわ遺跡調査団」によって瓦窯が四基出土したと報告され、その調査成果は書籍として一九八九年に公開されています。

しかし、始めに行われた一九六九年の調査については、未だに整



出土瓦の洗浄を行う足柄高校の生徒

理されていないことが判明しました。今年から二〇〇年以上昔の人々の痕跡を、しっかりと

とした形で公開したい。そんな思いから、「からさわ古窯研究会」を立ち上げ、有志の考古学者や大学生のほかに、県立足柄高等学校の生徒たちと共に、出土品の整理作業を行い始めたところだ。



拓本の作業を行う国士舘大学の学生

去る八月十二日に行った第一回の整理作業では、汚れていた瓦の洗浄作業を行ったほか、比較的状態の良いものについては、瓦を計測し図化する「実測」作業や、瓦の文様を写し取る「拓本」作業を行いました。作業はまだ始まったばかり。これから継続して作業を行い、松田町の宝を報告していきたいと考えています。

（からさわ古窯研究会 立原遼平）

松田文化財探訪

松田の関東大震災 その6

文化財保護委員 桐生 海正

山林の被害

関東大震災は人命のみならず、自然環境にも甚大な影響を与えました。「読本教材を主とせる郷土資料」には、寄村の山林の荒廃状況が記されています。

「言語に絶す」あり様だったといえます。加えて、弛んだ地盤に雨水が浸透し、被害を拡大させました。一〇年にわたる植林事業も虚しく、植林面積の半分以上が水泡に帰してしまつたのです。

とくに被害が大きかったのは、森村組が所有する山林（現「やどりき水源林」）でした。明治四五（一九一二年）に地元の有林であった山林を購入した森村組は、植林事業に乗り出しました。スギ、ヒノキ、アカマツ、カラマツなどの苗木が植え付けられ、大正一二（一九二三年）までに四六〇余町歩、一八二万二〇〇本の植林が完了しました（『神奈川の林政史』。大部分の植林が終わり、ようやく第二期計画に着手しようとしていた最中、震災がこの山林を襲います。山地の大半は崩壊し、溪流も埋没。その惨状は実に

ただし、やどりき水源林には、震災など数々の試練をくぐり抜けた巨木が現在も一部で残っています。この山林は「森村山林のヒノキ林」として、かながわの美林50選にも選ばれました。震災に思いを馳せながら、秋の散策に出かけてみてはいかがでしょうか。



寄村の山林の被害(出典：『関東震災荒廃林地復旧事業報告』神奈川県立公文書館所蔵、デジタルアーカイブを利用)